

発議第8号「旧統一協会」と政治家の癒着を究明し決別を求める意見書について賛成の討論を行います。

選挙遊説中に安倍元首相が銃撃され、亡くなるというショッキングな事件は、その加害者が旧統一協会の信者の2世であったことから旧統一協会による様々な被害が大きく取り上げられています。

改めて旧統一協会が引き起こした数多くの被害が報道され、いまだ続いている被害に驚愕します。その事実が明らかになる中で、事件の真相があぶり出され政権与党や閣僚、議員との親密な関係性も明らかになってきました。今月公表された自民党の旧統一協会に関するアンケートについての公表も点検結果について、誰もが疑念を持つ内容であり、色濃く関係性が問われていた国会議員の名前がないなど、これで幕引きは許されません。

この事件をきっかけとした旧統一協会やその関連団体が選挙をはじめとした様々な関係性を明らかにしていくべきです。これまでも私たちの暮らしや子供たちへの教育にも及ぶ偏った旧統一協会の教義と政策への疑念があ那时的改正や政策に影響を与えたとするならと考えると看過することはできません。

今後、関係性を明らかにしていくと同時に、宗教法人の公益性について議論し、宗教法人81条に基づく解散命令の適用可否も検討することも視野に入れて詰めていくことも必要です。信教の自由は守られなければいけません、宗教法人を解散しても信教の自由を奪うことにはならないとした判例もあると聞きます。

宗教法人は、税制の面から優遇措置を与えられており、宗教は、本来社会のためや公共のためと言われ、実際にはその線引きも難しいと聞くが避けては通れない課題であると思います。

新しい法律の検討は必要ですが、まずは選挙における支援をはじめとする関係性をしっかりと断つことを求める意見書に賛成といたします。